

【2024年度】(第21回) 原子力規格委員会功労賞 受賞者の方々

(50 音順 敬称略)

No	氏 名	所 属	選 考 理 由
1	あおき しげあき 青木 繁明	三菱原子燃料 株式会社	2018 年 4 月より原子燃料運用検討会に参画され、JEAC4212-2020「原子力発電所の炉心・燃料に係る検査規程」並びに JEAG4225「原子燃料に係る臨界安全管理指針」の制改定に参加された。 そして、燃料メーカー案を取りまとめ、分科会及び原子力規格委員会への説明において主査を強力にサポートし、速やかなコメント対応に尽力され、規格策定活動に大いに貢献された。
2	おぐら しんじ 小倉 信治	元東京電力 株式会社	2004 年 4 月より、約 21 年にわたり運転・保守分科会において規格の審議、制定等に貢献された。特に、JEAG4210-2007「原子力発電所の保守管理指針」の制定では、分科会幹事として尽力された。 2008 年に委員を退任、常時参加者となられたが、東日本大震災後に再度委員へ就任され、福島第一原子力発電所事故の現場対応に従事された経験及び知見を規格策定活動に生かされた。また、ご退職後も引き続き分科会委員として多大な貢献をされた。
3	にしだ ひろし 西田 浩	東京電力 ホールディングス 株式会社	2017 年 3 月より品質保証検討会に参画され、2022 年 11 月より主査として検討会を牽引し、検討会活動全体の取り纏めに尽力された。 特に、JEAG4121-2015「原子力安全のためのマネジメントシステム規程 (JEAC4111-2013) の適用指針」[2018 年追補版] 及び JEAC4111-2021「原子力安全のためのマネジメントシステム規程」の改定、並びに技術資料の制定において大いに貢献された。 さらに、JEAC4111 の普及促進においては講習会の講師を長年務め、理解活動に尽力された。
4	ふるた かずお 古田 一雄	東京大学 名誉教授	2011 年 11 月より約 12 年間、安全設計分科会長を務め、多数の規格の審議、制改定等に尽力された。 特に、福島第一原子力発電所事故以降の新規制基準対応及び検査制度見直しに伴う規格改定では、円滑に分科会を運営し、深い知識と経験を基に、新たな考え方に基づく規格の策定に尽力された。 また、原子力規制委員会による「デジタル安全保護系に関する日本電気協会規格の技術評価」への対応を指導し、規格のエンドースに貢献された。
5	よしむら しのぶ 吉村 忍	東京大学 大学院 特任教授	津波検討会が発足した 2012 年の第 1 回津波検討会から約 12 年間にわたり検討会主査を務め、規格の審議、策定に尽力された。また、主査退任後の現在も、委員として検討会活動に貢献されている。 福島第一原子力発電所の事故を契機に新たに立ち上げられた津波検討会では、これまでになかった耐津波設計に関する議論を主導し、JEAC4629-2014「原子力発電所耐津波設計技術規程」の制定及び 2021 年改定に大いに貢献された。